

補 論

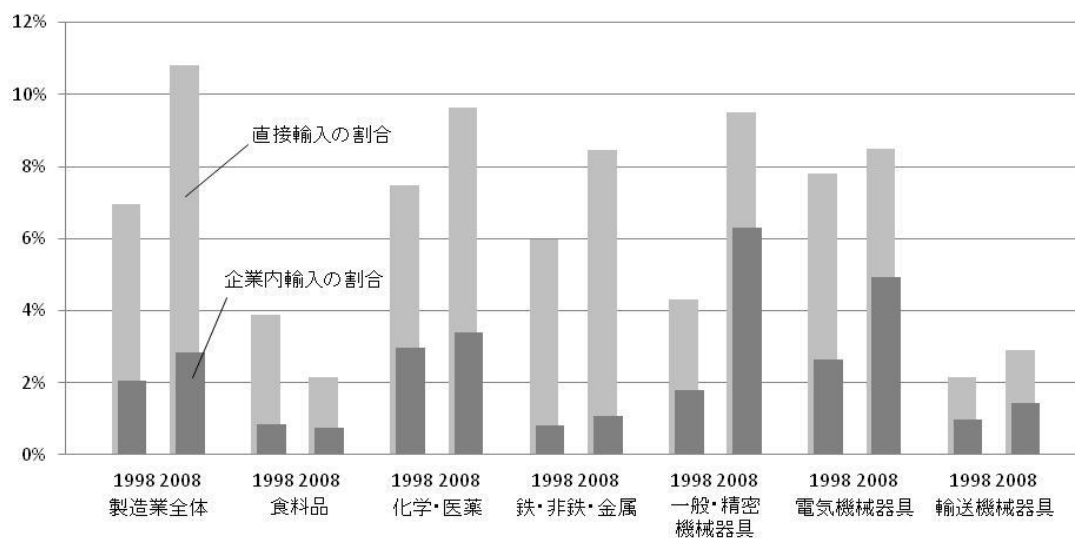
2014年2月17日 公開

第9章 国際要素移動

Web 資料 9-3 企業の直接貿易や企業内貿易の増加

企業は、外国から原材料や部品を直接輸入したり、外国に生産品を直接輸出したりする形で、国際貿易を行っている。このような企業による貿易活動は、オフショアリングの進展や FDI の増加によって、年々活発になる傾向がある。それをデータで確認してみよう。

図 9-W1 日本企業の仕入高に占める直接輸入と企業内輸入の割合



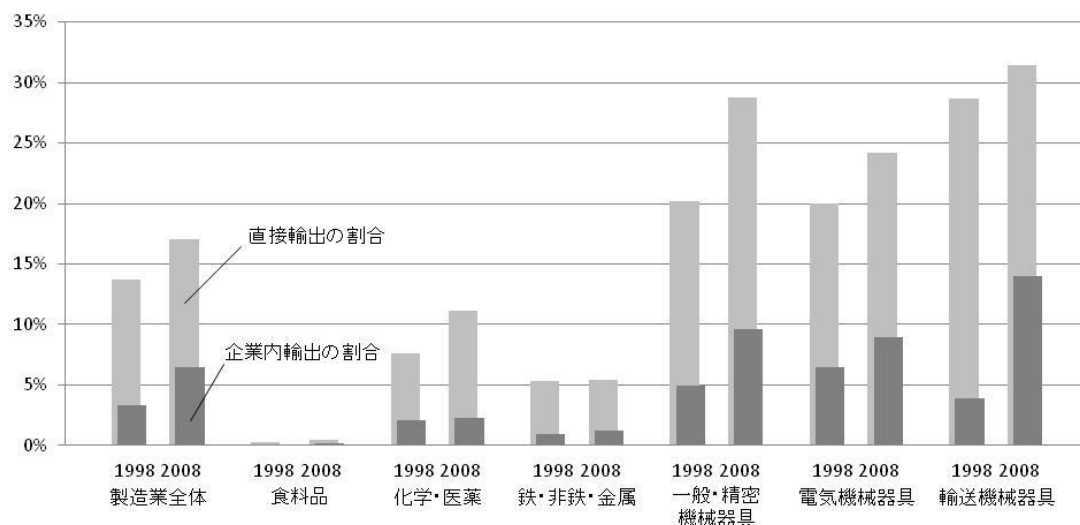
(出所) 経済産業省『平成 21 年企業活動基本調査』、『平成 11 年企業活動基本調査』。

図 9-W1 は、日本企業の仕入高に占める外国企業からの直接輸入の割合と、そのうちその企業と資本関係がある会社（海外子会社など）からの直接輸入である企業内輸入の割合を、製造業全体と、売上高の多い 6 産業について、1998 年と 2008 年で比較したものである。なお、ここでは企業による直接輸入のみを扱っているが、他にも企業は商社などを通

じて間接的に外国から原材料や部品を輸入している。

製造業全体では、1998年は仕入高の7.0%が仕入企業による外国からの直接輸入で、2.1%は企業内輸入であった。2008年には、両者の数字はそれぞれ10.8%と2.9%となり、ともに増加している。産業別でみると、図中の6産業のうち食料品以外はすべて、直接輸入割合も、企業内輸入割合も、ともに増加している。とくに、企業内輸入は一般・精密機械器具産業や電気機械器具産業で大きく伸びている。

図9-W2 日本企業の売上高に占める直接輸出と企業内輸出の割合



(出所) 経済産業省『平成21年企業活動基本調査』、『平成11年企業活動基本調査』。

また、図9-W2は、日本企業の売上高に占める外国企業への直接輸出の割合と、そのうちその企業と資本関係がある会社への直接輸出である企業内輸出の割合の、産業別の10年間の変化を、図9-W1と同様に示したものである。製造業全体では、1998年は売上高の13.8%が販売企業による外国への直接輸出で、3.3%は企業内輸出であった。2008年には、両者の数字はそれぞれ17.0%と6.49%となり、やはりともに増加している。産業別で見ると、6産業すべてで、直接輸出割合も企業内輸出割合も、10年間で増加している。とくに、3つの機械器具産業での両者の伸びは急激である。